


Echoview4.70 へようこそ

さらに内容が大きく進化した音響データポスト処理機能をご利用ください。

新機能は以下の分野にわかれています。

機 能	応 用	利 点
ユーザーインターフェースの強化		
もとに戻す	<p>File toolbar の、元に戻す(Undo)、と、やり直す(Redo)を使って以下のことができます。</p> <ul style="list-style-type: none">• EV File Properties edits• Variable properties edits• Line properties edits• Region Browser edits• Region Manager• Creating and editing lines• Creating and editing regions <p>右 Click の Shortcut menu での undo action はファイルツールバーの Undo (元に戻す) ボタン  に変わりました。</p> <p>Undo の詳しい情報については About Undo and Redo をご覧ください。</p> <p>キーボードショートカットの CTRL+Z、CTRL+Y と CTRL+SHIFT+Z はグローバルショートカットとして、Undo、Redo に置き換わりました。</p> <p>詳しくは、User-defined keyboard shortcuts Global keyboard shortcuts までお問い合わせください。</p>	作業中の修復に便利で解析ワークフローの効率アップ
変数とジオメトリウィンドウの強化	<ul style="list-style-type: none">• オブジェクト名は、ショートカットメニューの Rename (F2) を選択すると簡単に変更できます。オブジェクトの名前の変更についての詳しい情報は、About the Variables and Geometry - Short names for objects をご覧ください。• オブジェクトピングの統計 (ToolTip に表示) はショートカットメニューの Reset Statistics で変更することができます。• Echoview Configuration dialog box の Performance ページで ping generation の情報とピングキャッシュと一緒に Reset Statistics を使い、仮想変数のチェーンの性能を最適化して使えます。	ワークフロー効率向上のためのツール

<p>New Table ウィンドウ</p>	<p>ファイルセットウィンドウのテーブルボタンを使って位置、方向、や距離（航海記録）データを Table ウィンドウに表示します。</p> <p>そして次のことができます；</p> <ul style="list-style-type: none"> • クルーズトラックウィンドウで、テーブル選択を GPS フィックスに同期化することができます。 • テーブルウィンドウからデータをエクスポートすることができます。 	<p>ワークフローを効率よくするのに役立ちます</p>
<p>新 GPS 処理法</p>	<p>Method 2 という新しい航跡処理のアルゴリズムが Variable Properties dialog box の Data page に加わりました。これによって GPS データの初期の修正が可能です。</p>	<p>広範な GPS 処理アルゴリズムで解析の効率が上がる</p>
<p>航跡ウィンドウの強化</p>	<p>航跡データの表示や解析の機能が強化</p> <ul style="list-style-type: none"> • 航跡ウィンドウの直角、多角形選択のカーティション座標 area calculation は、Echoview status bar のパネル 1 で表示されています。 • 航跡ビューの ESRI shapefiles をサポートすることで航跡をシェイプファイルデータと一緒に表示することができます。 <p>詳しい情報については Adding Map and Waypoint files to cruise track windows をご覧ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 航跡がエコーグラムまたはテーブルと synchronized（同期化）したポイントをハイライトした丸と十字線。 • 丸が航跡に沿ってマウスポイントと一緒に移動します。これによって GPS 修正が見やすくなります。 <p>詳しい情報については Using Cruise Tracks をご覧ください。</p>	<p>航跡ウィンドウの視覚化と解析の強化</p>
<p>領域ページのデザイン変更および新分類ツール、Target class が追加</p>	<p>EV File Properties dialog box の領域ページ（Regions page）は Classes page に再定義されました。Classes ページでは領域分類、ターゲットや種の分類ができ、マルチビームターゲット分類の新機能 Target class も含みます。</p>	<p>この機能を使って分類ツール</p>
<p>新 EV ファイルロールロック設定</p>	<p>新しい EV ファイルは最初にシーンを Roll lock がオンになった状態で表示します。</p>	<p>表示の有用性は解析効率を上げます。</p>
<p>エコービュー処理のフィードバック</p>	<p>エコービュー処理中やデータ算出中のワークスペース表示や、プログレスバー表示の一貫性が向上しました。</p>	<p>信頼性の高いフィードバックで解析向上。</p>
<p>ヘルプファイルの向上</p>	<p>シングルターゲットが正しく特定されて表示されていることを確認して、正しい較正の設定を適用してください。詳しくは Single Target Display をご覧ください。</p>	<p>シングルターゲット解析を最適化する情報です。</p>

新演算子と演算子の強化		
<p>フォーミュラ演算子強化</p>	<p>公式構造に役立つ機能を追加、公式の構成部分を拡張しました。</p> <p>構造強化：</p> <ul style="list-style-type: none"> • Manipulate メニューを使って公式構造部分を移動、取り除いたりします。 • 公式上で navigation で簡単操作 • 公式構造部分のための search filter • Edit メニューで、元に戻す、やり直す • vps や vpbs のデザインが変わり、オペランドの特定が容易になりました。 <p>新しい Basic 構造部分：</p> <ul style="list-style-type: none"> • Degrees to Radians • Radians to Degrees • Round • Wrap, Clamp and Mod <p>新しい Grid and statistic 構造部分</p> <ul style="list-style-type: none"> • Range and Centered Range • Variance and Standard Deviation • Minimum and Maximum • Median <p>詳しくは About the Formula editor window をご覧ください。</p>	<p>これらの機能で公式演算子のワークフローが強化されます。</p>
<p>統計的な組み合わせ（ライン）演算子のデザイン変更</p>	<p>統計的組み合わせの演算子 Statistic - Median depth では、偶数、奇数の測深（ライン）の中央値測深を算出します。</p> <p>詳しくは、Statistical combination operator - Algorithm terms をご覧ください。</p>	<p>信頼性の高い中央値の算出でライン処理</p>
<p>ファイルフォーマットの強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ESRI shapefile .shp format を加えた map files の広範なサポート • Eonfusion .eve format の強化で選択した変数のエクスポート specify the data ができます。 • 詳しくは、Exporting to Eonfusion をご覧ください。 	<p>視覚化や解析のほかイオンフェュージョンにエクスポート機能が強化</p>
<p>スクリプティングと COM オブジェクト</p> <p>COM オブジェクト (COM object automation) を使ってエコービューへのアクセス（スクリプトを通して）が大きく向上しました。今後も COM オブジェクト機能についてはサポートを強化していく予定です。現在新しいチュートリアルやスクリプト例を更新しており、ユーザーがこれらをアップロード、処理、エクスポートなどが効率よく行えます。</p> <p>この自動モデルの利便性は情報をスクリプトに戻すことができることです。現在、スクリプトでは、知らされた決定、ユーザーから決定のリクエスト、エコービューからユーザーに情報をパスすることなどができます。</p>		

V4.70COM オブジェクトについての詳しい情報は、[Scripting with COM objects](#) をご覧ください。

COM 自動化についてのお問い合わせは、[contact us](#) までご連絡ください。

COM オブジェクト強化

[COM object navigation tree](#) に追加機能をご覧ください。[Summary of COM objects](#) ページの新しい機能リストで、新しい COM オブジェクト、方法、プロパティの強化などエコービューがどのように COM スクリプティングをサポートできるか参照ください。

新しい [Getting started with scripting](#) でスクリプト書きについて以下の内容を含む全容がわかります。

- Echoview's script interfaces
- Script editors
- Script languages
- Script content and structure
- Using Echoview scripting objects

位置データのエキスポートに関するサポートでは **EvVariableAcoustic** と **EvVariable Base** のデザイン変更を紹介します。

- データエキスポート方法は、EvVariableAcoustic から [EvVariableBase.ExportData](#) に移動して、音響、位置、方向、距離、変数などをサポートします。
- 新しいプロパティの [EvVariableAcoustic.PositionVariable](#) は、指定された位置変数をプラットフォームへ戻します。

[EvFile.IsLiveViewing](#) を使って EV ファイルがライブビューイングに使われたか確認します。

[EvVariableAcoustic.ExportEVE](#) を使ってデータを [Confusion](#) のために Echoview data export .eve format にエキスポートします。

[EvVariableAcoustic.ExportHAC](#) を使って HAC フォーマットにデータをエキスポートします。

[EvVariableAcoustic.ExportLine](#) を使って特定したラインを [.csv](#) フォーマットでエキスポートします。

[EvFile.RegionClasses.DeleteRegions](#) を使って分類クラスの領域を削除します。

[EvFile.Regions.Delete](#) を使って個別の領域を削除します。

[EvFile.Regions.Delete](#) を使ってピングサブセット視覚変数のピングサブセットページのピングレンジ設定をビューまたは変更します。

スクリプティング航海記録とその文書

- [Scripting with COM objects - Note to Creating a script](#)
- The new [EvApplication.LogFileName](#).
- [Scripting errors](#) - an overview

COM オブジェクトが COM スクリプト書きをすることがよくわかります。

COM エナム強化とデザインの変更	<p>eDataTypePitch と eDataTypeLine エナムが EVariableDataType に追加されました。</p> <p>警告：以下のエナム(enum)数値は修正されました。これを反映させるためにはスクリプトを更新してください。</p> <p>eNauticalMilesSquared の EBiomassUnits エナムは2から0に変更されました。</p> <p>以下の ERegionType エナムは以下のとおり変更されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • eMarker は1から2に変更 • eAnalysis は2から1に変更 • eFishTrack には3が追加 	
非推奨スクリプティングモデル文書の変更	<p>スクリプトコマンド (EchoviewV4.10 で凍結されている) が集まった文書は現在 Echoview ヘルプフィルテーブルコンテンツの Deprecated scripting model にグループされています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 新しいページ: Summary of deprecated scripting commands • evo.ExportData を使って距離変数をエクスポートします。 	
<p>効率向上とそのほかの変更</p>		
EchoIMPACT エクスポートのバグフィックス	<p>EchoIMPACT エクスポートは現在、Quester Tangent Corporation EchoIMPACT ソフトウェアを使った海底探知のレンジ値を含みます。以前のバージョンでは、測深+ドラフト値をエクスポートしていました。</p> <p>くわしくは EchoIMPACT export files をご覧ください。</p> <p>注：EchoIMPACT に呼び出す前にドラフトまたはその他の差し引き位置を当てはめる必要があります。またはポスト処理でそれらを調整します。</p>	
ガイドラインカラーのバグフィックス	<p>シングルターゲットエコグラムグリッドラインがはっきりと表示され、カラーレジェンド (color legend) が変更するごとに更新されます。</p>	
そのほかの文書	<ul style="list-style-type: none"> • 解析エクスポートの変数プロパティの情報が詳しくなりました。詳しくは About setting variable properties page のフローチャートやフローチャートレジェンドを参照ください。 • 編集可能なラインの垂直バンドツールを使って Recalculate line や Repick line の正確な結果を出します。詳しくは、Creating, editing, renaming and deleting lines を参照ください。 • ビーム選択変数に関する測深計算について、About depth and range - A special case を参照ください。 • Echoview and Microsoft Windows Vista についての最新情報を参照ください。 	

マルチビーム、イメージングソナー、スキャニングソナーユーザーの新機能

機能	応用	利点
ユーザーインターフェイス強化		
表示の強化	<p>これらのエコーグラム表示強化によって安定した機能の利用が可能になりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> マルチビーム replay control Play/Pause が Stop コントロールに置き換わりました。Play/Pause は SPACEBAR にトグルできるためワークフローの効率が上がります。 Echogram mode 設定がマルチビームエコーグラムにおいてダッシュドラインの Looped Multibeam Replay 表示がコントロールできます。水平ラインには Echogram mode > Depth を選択、曲線では Echogram mode > Range が選択されます。 <p>詳しくは、ダッシュドラインノートの Looped multibeam replay with a single beam echogram を参照ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> マルチビームエコーグラムでターゲットは Region のウィンドウの行を double-clicking することによって見られます。または、Target Metadata ウィンドウで現在のズームレベルを維持します（ズームインを使ってターゲットの拡張がされています）。 	表示機能の強化によって解析効率が上がります。
新しいターゲットのクラス分類	<p>マルチビームエコーグラムで、新しいターゲット分類ツールを使ってターゲットのクラス分類をします。</p> <p>くわしくは Target properties from multibeam data - Target class を参照ください。</p>	この機能によってマルチビームポスト処理解析が強化します。
ターゲット厚さのデザイン変更	<p>変数プロパティダイアログボックスのマルチビームターゲットプロパティの Target thickness が取り除かれました。</p> <p>くわしくは Target properties from multibeam data を参照ください。</p>	この機能によってマルチビームターゲット解析のワークフローが強化します。
ユーザー指定によるショートカットメニュー	<p>マルチビーム表示設定の Show target sample outlines と Show input data under targets は user-defined shortcut とトグルできます。この機能はマルチビームターゲットの作業中や、特定中に役立ちます。</p>	この機能によってマルチビームターゲット解析ワークフローが強化します。
新演算子と演算子の強化		
新演算子	<p>新しい Maximum Intensity 演算子によって、R レンジで対応する全てのマルチビームサンプルで最高値を含む個別サンプル（レンジ R で）のシングルビーム視覚変数を作ることができます。</p> <p>この演算子を使って：</p> <ul style="list-style-type: none"> マルチビームターゲット探知で見逃したターゲットを特 	この機能によってマルチビームターゲット解析が強化します。

	<p>定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ターゲットの種を特定できる遊泳形や鰭振動レートの認定ができます。詳しくは target range extent を参照ください。 	
マルチビームターゲット探知演算子とその効果能力	<p>Multibeam target detection 演算子でターゲットリンクの設定をすることで関連サンプルを統合することができます。</p> <p>target linking algorithm によって以下のことが特定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> Classification thresholds for targets (ターゲットのスレッシュホルドによる分類) Link distance - リンクが発生する距離 Rules で分類ターゲットのリンク <p>このほか、マルチビームターゲットによって引き出したシングルターゲットで作業するとき、どのようにワークフローの効率を上げるか discussion で述べられています。この情報は、マニュアルターゲットレングスで作業するのに役立ちます。</p> <p>About multibeam targets ではマルチビームターゲットに関する問題などについて述べています。</p>	この機能によってマルチビームターゲット探知のカスタマイズができます。
演算子効率の強化	<p>マルチビーム演算子の能率： Sample statistic subtract は、これまでの約2倍の速度で、アルゴリズムの Sample exclusion 設定が新しく加わりました。</p> <p>Sample statistic subtract を使ってマルチビーム変数の背景ノイズを除去することができます。詳しくはマルチビームセクションの Background noise in Echoview を参照ください。</p>	主なマルチビーム演算子の強化によってワークフローの能率が上がります。
ファイルフォーマット強化	<p>エコービューマルチビーム海底データは、csv file にエクスポートすることができます。このようなデータを motion データと合わせてイオンフュージョンで使うことで motion 修正することができます。</p>	イオンフュージョンへのエクスポートが強化
能率強化とそのほかの変更		
ターゲットプロパティのエクスポートバグフィックス	<p>target properties Target length across beams と Target range extent の export バグはフィックスされました。これらのプロパティはスプレッドシート (spreadsheet) フォーマット .csv エクスポートには含まれていましたが database format .csv エクスポートでは欠けていました。</p>	
ヘルプファイル修正	<p>フィッシュトラックデータと利用可能なターゲットプロパティがエクスポートできる情報が追加されています。セクションの Working with multibeam target properties を参照ください。</p>	